



学力向上フロンティア事業 漁業士内弟子体験 ＜イワガキ出荷準備研修＞ 「ことばの力」トライアル

＜真鍋 仁＞

イワガキは数個のイワガキが塊になっており、それを分離する作業を通じて、イワガキが商品として消費者に渡るまでのことについて教えていただきました。

イワガキの殻は層状になっており、その隙間に入った小さなイガイやゴカイも落とさなければ、それらが先に腐敗してしまい、イワガキには異常がなくても、「生臭い」「腐っているのではないかな」などのクレームが入るそうです。商品として売る以上、見た目だけでなく、衛生面にも配慮しなければ売れないそうです。さらに貝毒が見つかった場合は翌年まで出荷できないこと、通信販売で貝を販売する場合は形や大きさまで良くしなければならぬなど、生き物を売り物として扱うことの苦勞を初めて知りました。

実際の作業内容は、塊になっている数個のイワガキを1つずつに分けていくということです。荒砂さんの手の動きを見ていると簡単そうに見えましたが、実際にやってみると、イワガキとイワガキの隙間がどこなのか、どの角度で工具を入れたらよいのか、全くわかりませんでした。荒砂さんにアドバイスを求めると、いとも簡単にポイントを見つけて、その部分に工具を入れると「スパツ」とイワガキが剥がれました。イワガキは同じ形で成長することは絶対にないので、荒砂さんの経験の豊富さがよくわかりました。

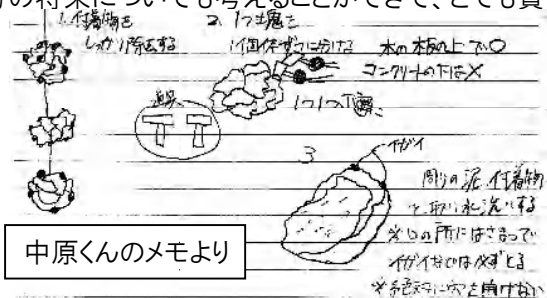
今回、荒砂さんに教えていただいた知識や技術を、私たちのイワガキ育成に良い形でつなげていきたいと思います。



＜下岡 純奈＞

私は、大勢の人の前で自分の意見を発表することが苦手です。しかし、自分が思っていることは、きちんと整理して、しっかりと声に出さないと相手に伝わりません。今回、作業を教えていただいた荒砂さんの説明は本当にわかりやすく、私もすぐにコツをつかむことができました。私の将来の夢は保育士になることです。この職業は、子どもにわかりやすく指示をしなければなりません。指示する内容は異なりますが、荒砂さんのようにわかりやすい説明ができるようになりたいと思いました。また、私が保育士になったら、子どもたちに漁業や農業などの様々な体験をしてもらい、生き物の尊さ、食の大切さを感じてほしいとも思いました。

今回の実習では、イワガキのことはもちろん、自分の将来についても考えることができ、とても貴重な時間になりました。



＜中原 大佑＞

昨年度で終了した「目指せスペシャリスト事業」で、海洋科学科の先輩方が育ててこられた2年目のイワガキをプロの漁業士の方の指導の下、取り外してパールネットに移し換えた。私たちの代では、数個体固まって成長したイワガキと、1個体ずつにしたイワガキの成長のスピードがどれだけ違うかという研究を行うためである。

プロの漁業者である荒砂さんからは、水深3～6mに垂下すること、イワガキの密度が高すぎると成長できないだろうということ、さらに150g前後のイワガキが1日にドラム缶1つ分ほどの海水をろ過することなどを教えていただいた。その中でも私が最も興味を持ったのは流通に関する内容だった。

私は将来、水産物の流通の現場で働きたいと考えている。大型スーパーの大量仕入れにより、個人経営の魚屋や卸売業社まで魚が回っていかず、廃業に追い込まれている。その大量仕入れの影響で、1個体あたりの金額も下がり、漁業者の収入も下がっているようである。荒砂さんの話によると、イワガキも例外ではなく、昔は1個体400～500円で売れたが、現在は250～300円まで下がっている。この現状を放置すると、漁業者はどんどん減っていくだろうと思った。

今回、漁業者の方の生の声を聞けたことにより、大学で学びたいことがずいぶん明確になったと思う。まず、誰もが損することなく、特に生産者に最も利益があるような流通経路ができないか、そうすれば生産者側の生産意欲も増し、品質も向上すると思う。次に、スーパーと個人経営店のバランスを確立させることも大切である。さらに、個人経営店から直接海外へ出荷できるルートも作ってみたい。常に生産者側の生の声に耳を傾け、生産者を尊重した流通をしたいと思う。